

地震災害年表

年月日(日本暦)	M	地域(地震名)	被害
684 X 29(天武13 X 14)	8 ±	土佐及び東海・南海・西海諸道	人畜死傷多し、民家多く倒る、土佐国地盤沈下12km ² 水没 津波あり
869 VII 13(貞観11 V 26)	8.3	三陸沿岸	三陸地方大津波、人家破壊し、溺死1,000余人、発光現象あり
887 VII 26(仁和 3 VII 30)	8.5	京都及び五畿七道	家屋倒壊、圧死者多数、津波あり(南海道、東海道沖)
1096 XI 17(嘉保 3 XI 24)	8.4	畿内、東海・南海道諸国	寺院橋梁損傷す、津波あり、社寺・民家の流出400余
1185 VII 13(元暦 2 VII 9)	7.4	近江、山城	神社仏閣倒壊多し近江の湖水激減す
1293 V 27(正応 6 IV 13)	7.0	関東、越後	死者数千〜23,000余、鎌倉強震
1361 VII 3(正平16 VI 24)	8.5	畿内及び南海道の一部	摂津・阿波・土佐に津波被害あり、流失家屋死者多し
1498 IX 20(明応 7 VII 25)	8.4	東海道全般	津波あり、伊勢大湊にて家屋流失1,000棟、溺死5,000人 鎌倉にて溺死200人、浜名湖海に通ずる(東海道沖)
1586 I 18(天正13 X 29)	7.8	東海、東山、北陸諸道、畿内	飛騨白川谷山崩れにて死者、近江・長浜・美濃・大垣、津波あり
1605 II 3(慶長 9 XI 16)	7.9	東海、南海、西海諸道 (慶長地震)	津波が房総より九州東岸まで襲来し溺死者5,000余人、房総 半島外面部で潮が4kmひき、干潟となる
1611 IX 27(慶長16 VII 21)	6.9	会津	山崩れ人家倒壊多し、死者3,700人、湖生ず
1611 XI 2(慶長16 X 28)	8.1	三陸、蝦夷	大津波あり、伊達領にて溺死1,783人、南部津軽にて人馬溺死3,000余人
1662 VI 16(寛文 2 V 1)	7.6	畿内、東海、東山諸道	各地諸城破壊、倒壊家屋9,590、死者多数
1662 X 31(寛文 2 IX 20)	7.6	日向、大隅	津波あり、宮崎県沿岸7ヶ村が水没
1677 XI 4(延宝 5 X 9)	8.0	関東、磐城	津波あり、死者500余人(房総半島沖)
1703 XI 31(元禄16 X 23)	8.2	江戸及び東海道諸国 (元禄地震)	死者2,300人以上、房総半島被害甚し、津波あり (相模湾、房州沖)
1707 X 28(宝永 4 X 4)	8.4	東海道、畿内、南海道及び東山、西海諸道 (宝永地震)	倒壊家屋60,000、死者20,000人、九州南東岸より伊豆まで津波あり
1717 V 13(享保 2 IV 3)	7.5	花巻	家屋破損し地裂く
1771 IV 24(天明 8 III 10)	7.4	石垣島、宮古島 (八重山地震津波)	石垣島、宮古島大津波、石垣島最大波高約30m、溺死者約12,000人、住家全壊2,000余
1843 IV 25(天保14 III 26)	7.5	釧路、根室	津波の被害多し、死者46人
1847 V 8(弘化 4 III 24)	7.4	信濃、越後 (善光寺地震)	倒壊家屋34,000、死者12,000余人、火災水害甚し、山崩れあり、 家屋焼失3,500
1854 XI 23(嘉永 7 XI 4)	8.4	東海、東山、南海諸道 (安政東海大地震)	大津波あり、濱・焼失家屋約30,000、死者2,000〜3,000人、 富士川洪水流出
1854 XII 24(嘉永 7 XI 5)	8.4	伊勢湾より九州に及ぶ (安政南海大地震)	房総半島より九州東岸まで大津波、安政東海地震による被害と区別困難
1855 XI 11(安政 2 X 2)	6.9	江戸 (江戸地震)	江戸市中で死者4,000余人、倒壊焼失家屋14,000余、大火災
1872 III 14(明治 5 II 6)	7.1	石見・浜田 (石見浜田地震)	死者804人、家屋全壊5,796
1891 X 28(明治24)	8.0	岐阜県南西部 (濃尾地震)	倒壊家屋142,177、死者7,273人、断層著しく根尾谷断層生じる 岐阜にて余震10余年続く
1894 X 22(明治27)	7.0	羽前、羽後 (庄内地震)	倒壊家屋3,858、死者726人、傷者1,060人、焼失家屋2,148
1896 VI 15(明治29)	8 ±	三陸沖 (三陸地震津波)	大津波、陸前吉浜にて高さ24.4m、倒壊流出家屋8,891、 死者22,066人
1896 VII 31(明治29)	7.2	秋田県東部 (陸羽地震)	倒壊家屋4,387、死者209人、断層著し、前震あり
1897 VII 5(明治30)	7.7	三陸沖	広田湾、越喜来、女川で津波の高さ3m
1905 VI 2(明治38)	6.0	安芸灘 (芸予地震)	死者11人、全壊64
1909 VII 14(明治42)	6.8	滋賀県東部(江濃(姉川)地震)	死者41人、全壊978
1911 VI 15(明治44)	8.0	喜界島近海	死者12人、倒壊428
1914 III 15(大正 3)	7.1	羽後仙北部 (秋田仙北地震)	死者94人、家屋全壊640
1918 IX 8(大正 7)	8.0	ウルフ島沖	津波あり、岩美湾にて6〜12m、溺死24人
1923 IX 1(大正12)	7.9	関東南部 (関東大地震) 相模湾	死者99,331人、傷者103,733人、行方不明43,476人、家屋焼失447,128、全壊128,266、流失868
1924 I 15(大正13)	7.3	丹沢山付近 (丹沢地震)	死者19人、傷者638人、家屋全壊1,298
1925 V 23(大正14)	6.8	兵庫東北 (北但馬地震)	死者428人、傷者834人、家屋全壊1,295、焼失2,186
1927 III 7(昭和 2)	7.3	京都府北部 (北丹後地震)	死者2,925人、傷者7,806人、家屋全壊12,584、焼失3,711
1930 X 26(昭和 5)	7.3	静岡県東部 (北伊豆地震)	死者272人、傷者572人、家屋全壊2,165、丹那断層(延長25km) (ズレ2〜3m) 前震顕著

年月日(日本暦)	M	地域(地震名)	被害
1931IX21(昭和6)	6.9	埼玉県中部 (西埼玉地震)	死者16人、傷者146人、家屋全壊76
1933III3(昭和8)	8.1	三陸はるか沖 (昭和三陸地震津波)	死者3,008人、傷者1,152人、家屋流失4,917、船舶流失7,303、波の高さ綾里湾の白浜で23m
1943IX10(昭和18)	7.2	鳥取市付近 (鳥取地震)	死者1,005人、傷者3,259人、全壊7,527、断層・地割れ・山崩れ多し
1944XI7(昭和19)	7.9	熊野灘 (東南海地震)	死者871人(溺死者250人)、行方不明450人、全壊13,586、流失家屋2,071、津波は熊野灘沿岸で波高6~8m、所により10mに達した
1945I13(昭和20)	6.8	渥美湾 (三河地震)	死者1,180人、傷者521人、全壊4,535、断層を生ず、前震あり
1946XII21(昭和21)	8.0	南海道沖 (南海道地震)	死者1,362人、行方不明102人、傷者2,632人、全壊11,506、流失2,109、浸水33,093、大津波紀伊南端5.6m、高知田園15km ² 海没
1948VI28(昭和23)	7.1	福井県北部 (福井地震)	死者3,769人、傷者22,203人、家屋全壊36,184、焼失3,851、断層を生ず
1952III4(昭和27)	8.2	十勝沖 (十勝沖地震)	死者不明33人、傷者287人、家屋全壊815、浸水328、津波
1960V23(昭和35)	8.25 ? 8.5	北海道、三陸、関東 「チリ地震津波」	死者122人、行方不明20人、傷者872人、家屋全壊1,571、床上浸水19,863、船舶沈没流失1,130、津波岩手県沿岸5~6m
1961VIII19(昭和36)	7.0	岐阜県北部 「北美濃地震」	死者8人、傷者43人、家屋全壊12
1962IV30(昭和37)	6.5	宮城県北部 宮城県北部地震	死者3人、傷者276人、家屋全壊369
1964VII16(昭和39)	7.5	新潟県沖 「新潟地震」	死者26人、傷者447人、家屋全壊全壊2,250、床上浸水9,974、石油タンク焼失、地盤の液状化、津波あり
1968II21(昭和43)	6.1	宮城県南西部 「えびの地震」	死者3人、傷者42人、家屋全壊368
1968V16(昭和43)	7.9	十勝沖 「1968年十勝沖地震」	死者52人、負傷329人、建物全壊676、津波大槌湾5.7m
1973VI17(昭和48)	7.4	根室半島南東沖 「1973年6月17日根室半島沖地震」	負傷26人、建物全壊2、一部破損1、床上浸水89、津波の高さ花咲4m以上
1974V9(昭和49)	6.9	伊豆半島沖 「1974年伊豆半島沖地震」	死者・不明30人、負傷者102人、全壊5、家屋全壊134、半壊240、一部破損1,917、津波あり
1978I14(昭和53)	7.0	伊豆大島近海 「1978年伊豆大島近海地震」	死者25人、建物全壊34、半壊539、稲取断層(延長4km、右ズレ1m)、前震顕著、津波あり
1978VII12(昭和53)	7.4	宮城県沖 「1978年宮城県沖地震」	死者28人、負傷者1,325人、建物全壊1,183、半壊5,574、道路損壊888、山(崖)くずれ529、津波あり
1982III21(昭和57)	7.1	浦河沖「昭和57年 (1982年)浦河沖地震」	負傷者167人、建物全壊9、半壊16、一部破損174、鉄軌道被害45、道路破壊4、津波あり
1983V26(昭和58)	7.7	秋田・青森県沖「昭和58年 (1983年)日本海中部地震」	死者104人、負傷者163人、建物全壊934、半壊2,115、道路破壊616、船舶沈没・流失706、津波の高さ6m以上
1983VIII8(昭和58)	6.0	神奈川・山梨県境	死者1人、負傷者33人、建物全半壊2
1984IX14(昭和59)	6.8	長野県西部「昭和59年 (1984年)長野県西部地震」	死者29人、負傷者10人、建物全壊12、半壊73、流出13、道路破壊388、山(崖)くずれ126
1987III18(昭和62)	6.6	日向灘	死者1人、負傷者若干
1987XII17(昭和62)	6.7	千葉県東方沖	死者2人、負傷者138人、建物全壊10、一部破損60,000余
1989II19(平成1)	5.6	茨城県南西部	死者1人(ショック死)、負傷者1人 ^{*1}
1993I15(平成5)	7.8	釧路沖「平成5年(1993年) 釧路沖地震」	死者2人、負傷者967人、住居全半壊308 ^{*1}
1993VIII12(平成5)	7.8	北海道南西沖「平成5年(1993年) 北海道南西沖地震」	死者202人(青森県で1人)、行方不明29人、負傷者321人(重傷81人)、家屋被害、船舶被害多数 ^{*1*} 、津波の高さ(検潮儀による)江差(振り切れ175cm以上)、岩内港(120cm)ほか
1993X12(平成5)	7.1	東海道はるか沖	死者1人(東京都)、負傷者4人(重傷2人) ^{*1*}

注：1885年～1924年のマグニチュードは宇津(1982)による。

(気象庁地震火山部)

1926年～1960年のマグニチュードは地震月報別冊6号による。

1961年以降のマグニチュードは気象庁月報による。

*1：(被害は自治省消防庁による)

*2：(被害は12月6日現在)

*3：(被害は10月12日現在)